東海地区

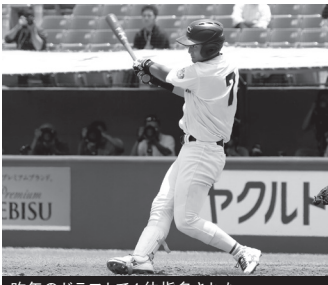
近年、ドラ1指名や目玉候補を立て続けに輩出してきた東海地区。今年はスケールが大きい鈴木博志（ヤマハ）が1位候補に挙がるものの、不安点も抱えている。例年は春から評価を上げる選手や、思わぬところから台頭する選手が出てくるが、今年は果たして？　文＝尾関雄一朗

今年はドラフト候補が少なめ

東海地区からここ5年間、連続してドラフト1位が出ている。2012年から順に石山泰稚（ヤクルト）、鈴木翔太（中日）、野間峻祥（広島）&竹下真吾（ヤクルト）と続き、さらに高橋純平（ソフトバンク）、吉川尚輝（巨人）とドラフトの目玉を擁した。2位以降でも則本昂大（楽天）、高木勇人（巨人）など球界を活気づけた選手を輩出。今季は源田壮亮（西武）が新人ながらチームのレギュラー争いに加わっている。東海地区は都市圏としては関東・関西地区に及ばず、〝地方〟の一角に見られることもあるが、適度にノビノビした環境のもと逸材が続々現れている。

ただ例年に比べ、今年の東海地区は限定的か。好選手はいるが、ドラフトを意識できる選手となると高校生では三重県を除く3県、大学生では4県全てで少ない。社会人も、近年では一昨年あたりがピークだった印象だ。

さらに今年は、ドラフト候補のケガの状態がプロ球団スカウトたちを悩ませるかもしれない。唯一ドラフト1位を狙えそうな鈴木博志（ヤマハ）は高校時代に右ヒジを手術していて、社会人で本格的に投げたのは昨年のみ。大学生で名前が挙がる平岡敬人（中部学院大）は昨秋、右肩のケガで公式戦登板がなく、吐前拓哉（東海学園大）もコンディションが上がり切らない時期があった。昨年のドラフトでは、吉川の右ヒジの状態に不安があると噂され、プロ入り後の春季キャンプでは右肩痛も発覚したが、ケガの具合を調査することはスカウトにとって必須の任務であり、水面下で情報戦が繰り広げられそうだ。もちろん、ドラフト時に故障を抱えていても、それを承知で獲得にいき成功するケースもある。指名回避も囁かれた高橋朋己（西武）などが好例だ。見極めが重要になる。



昨年のドラフトで1位指名された吉川尚輝（中京学院大〜巨人）

東海地区
注目ドラフト候補名鑑

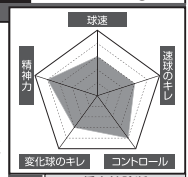
池谷蒼大（静岡高）

池谷 蒼大

静岡高（3年）
投手・左投左打
175cm75kg

いけや・そうた

東海地区の高校生左腕ではナンバーワンの存在。バランスのよいフォームからしっかり腕を振り、キレのある球をコーナーへ決められるコントロールがある。打者の手元で伸びを増すストレートは最速144キロで、これにスライダー、カットボールを交ぜる。下級生時から腰の故障に悩まされてきたが、状態さえよければプロも射程に入る。



プロ注目度	将来性診断			
	総合	体のキレ	伸びしろ	頭脳
B	B	B	C+	B

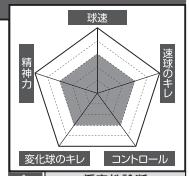
岡本滉史（県岐阜商高）

岡本 滉史

県岐阜商高（3年）
投手・右投左打
178cm84kg

おかもと・こうし

体のパワー、柔らかい体の使い方、しっかりとした腕の振り。本格派としてプロ入りも狙える好素材だ。冬に体重が増え、今春の球速140キロ超えは濃厚。ブレーキの効いたタテ変化のスライダーも武器になる。昨秋県大会初戦では延長戦に入るまで四死球を出さなかったのも評価。社会人野球・大仙からダイエー入りした父をもつ。



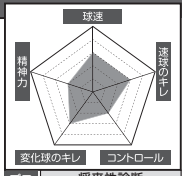
プロ注目度	将来性診断			
	総合	体のキレ	伸びしろ	頭脳
C+	B	B	B+	C

宮原 大樹

宇治山田商高（3年）
投手・右投右打
186cm80kg

みやはら・だいき

素晴らしいポテンシャルを秘めた長身右腕。長い腕を上から大きく振り、スピンのかかった角度あるストレートで空振りを奪う。1年秋は踏み出した左足のヒザが割れるほど下半身が弱かったが、この1年で日々強化。腕の振りは時折アーム気味に映るが、あり余る伸びしろで変わる余地を残す。スライダーも落差を感じさせる軌道。



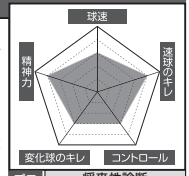
プロ注目度	将来性診断			
	総合	体のキレ	伸びしろ	頭脳
B	B+	B	B+	C

渡辺 啓五

いなべ総合学園高（3年）
投手・右投左打
179cm 82kg

わたなべ・けいご

大舞台でもひるまず、自在に打者を封じる快投が光る。フォームに間があり、球持ちがいい。軽く投げているような腕の振りからピュッとくるストレートは最速144キロで角度・キレが十分。スライダーなど変化球でコーナーを突ける制球力もある。昨春は肋骨骨折、夏は右ヒジ痛で甲子園こそ不完全燃焼だったが、万全なら素質は一枚上だ。



プロ注目度	将来性診断			
	総合	体のキレ	伸びしろ	頭脳
C+	B	B	B	B